

決算説明会

2020年度（2021年3月期）第2四半期

DOWAホールディングス株式会社

2020年11月13日

2020年度上期① 業績概要

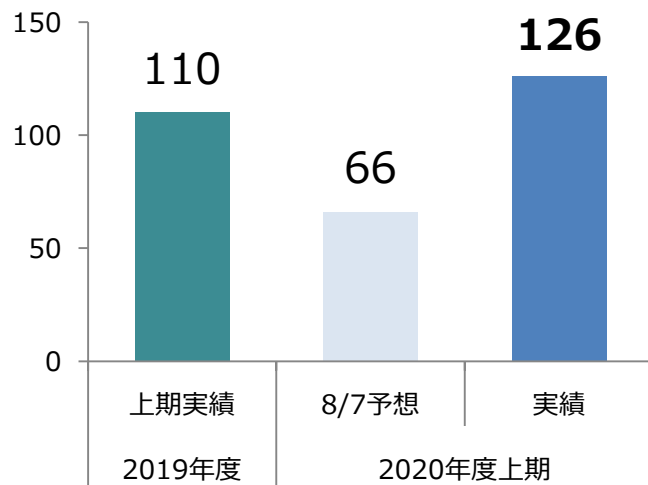
(単位：億円、億円未満切り捨て)

	2019年度 上期実績 ①	2020年度上期		比較増減			
		8/7予想 ②	実績 ③	前年同期比 (③ - ①)		8/7予想比 (③ - ②)	
売上高	2,307	2,275	2,524	216	9%	249	11%
営業利益	110	66	126	15	14%	60	91%
経常利益	124	34	93	△ 31	△25%	59	174%
親会社株主に帰属する 当期純利益	79	△ 10	16	△ 63	△80%	26	-

✓ 2020年度上期は、8/7予想を大きく上回る着地となった

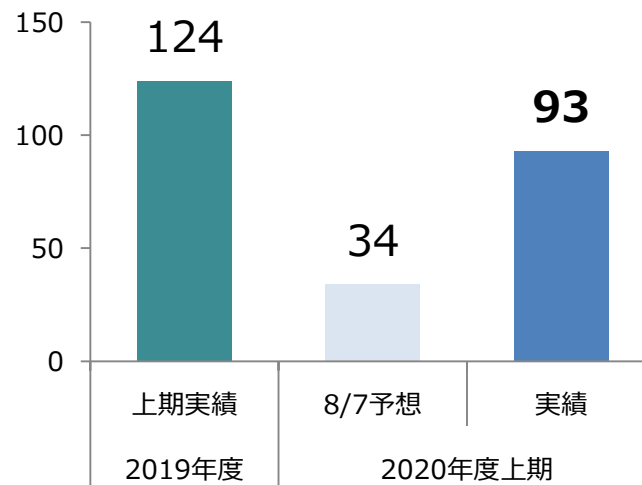
■ 営業利益推移

(単位：億円、億円未満切り捨て)



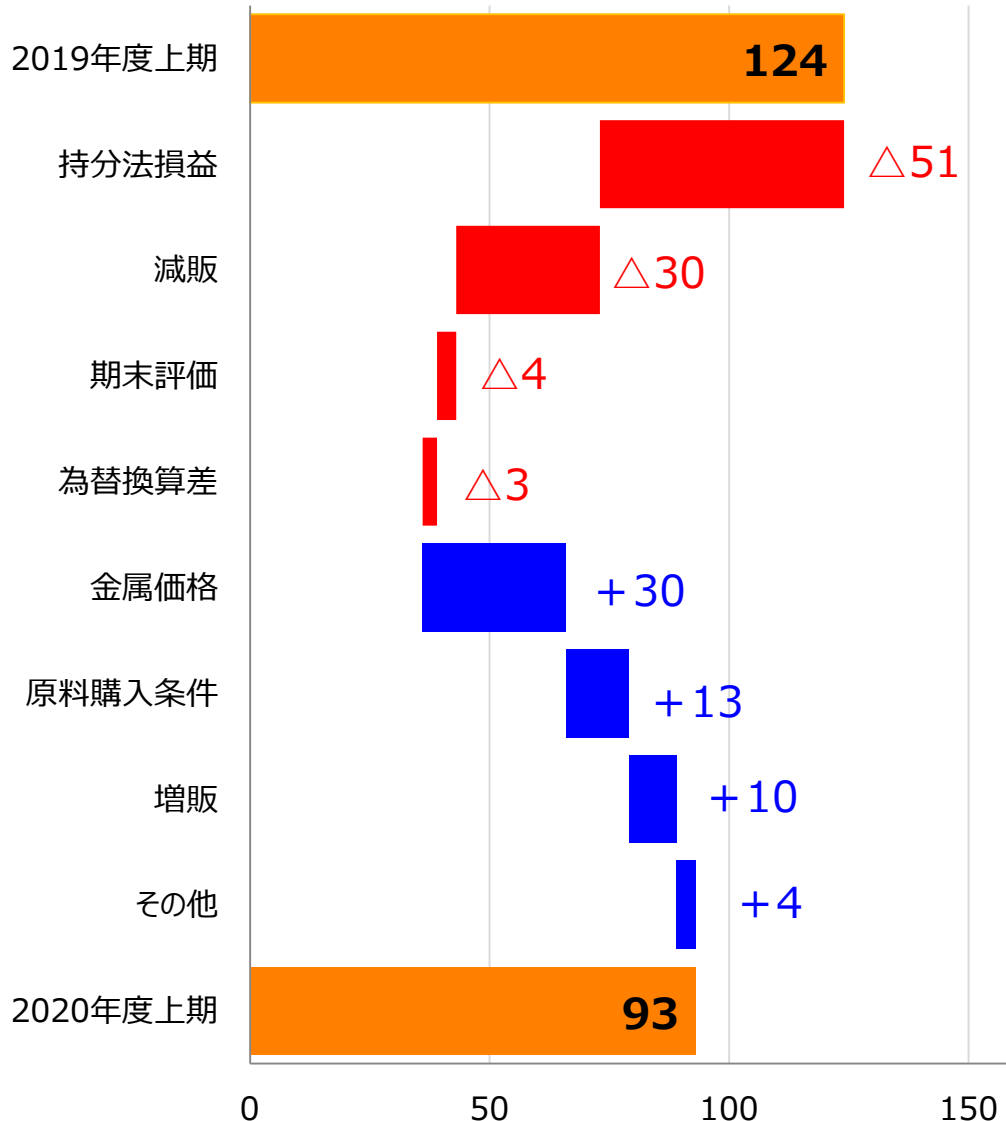
■ 経常利益推移

(単位：億円、億円未満切り捨て)



2020年度上期② 経常利益の増減分析

(単位：億円、億円未満切り捨て)



主な増減要因

- ・持分法適用関連会社が前年同期比で減益
- ・自動車関連製品およびサービスの販売が減少
- ・金属価格上昇に伴う期末評価損失の発生
- ・円高による米ドル建て収入の減少
- ・貴金属、ベースメタルともに価格が上昇
- ・亜鉛原料の購入条件（T/C）が改善
- ・環境・リサイクル、電子材料の需要は堅調

前年同期比31億円の減益

持分法適用関連会社の減益と自動車関連製品・サービスの需要減により減益となった

2020年度通期① 業績予想

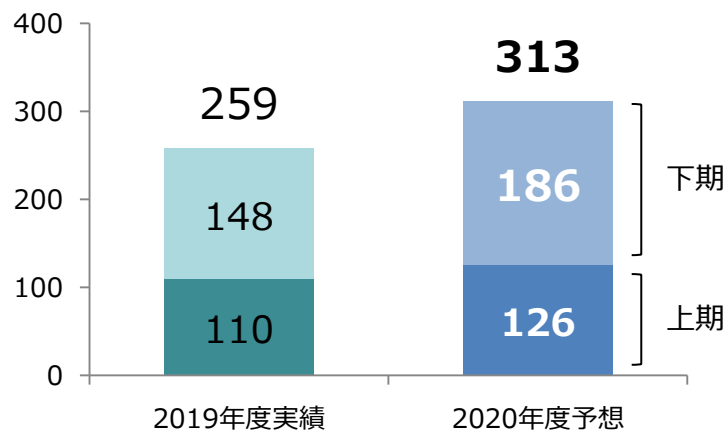
(単位：億円、億円未満切り捨て)

	2019年度 実績	2020年度 予想	増減	
売上高	4,851	5,636	784	16%
営業利益	259	313	53	21%
経常利益	289	290	0	0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	173	120	△ 53	△31%

✓ 通期では、売上高、営業利益が前年実績を上回る見通し

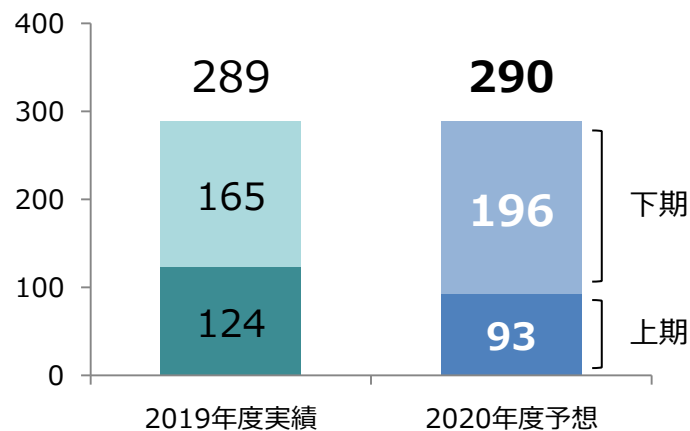
■ 営業利益推移

(単位：億円、億円未満切り捨て)



■ 経常利益推移

(単位：億円、億円未満切り捨て)



2020年度通期② 業績予想（セグメント別）

単位：億円、億円未満切り捨て

	2019年度 実績			2020年度 予想			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境・ リサイクル	1,121	72	69	1,161	75	71	39	2	1
製錬	2,272	100	122	2,636	168	209	363	67	86
電子材料	982	10	24	1,533	22	32	550	11	7
金属加工	823	51	51	755	32	36	△ 68	△ 19	△ 15
熱処理	279	12	12	248	7	6	△ 31	△ 5	△ 6
その他、全社・消去	△ 628	13	10	△ 696	9	△ 63	△ 68	△ 4	△ 74
合計	4,851	259	289	5,636	313	290	784	53	0

2020年度通期③ 業績予想（前提条件、感応度）

感応度（営業利益/下期）

	前提条件	変動幅	感応度
為替	105.0 円/\$	±1 円/\$	2.6 億円
銅	6,500 \$/t	±100 \$/t	0.2 億円
亜鉛	2,400 \$/t	±100 \$/t	2.4 億円
インジウム	160 \$/kg	±10 \$/kg	0.3 億円

※為替感応度の内訳は、製錬部門2.3億円、電子材料部門0.3億円です。

為替、金属価格比較

	2019年度			2020年度			(参考)
	上期平均	下期平均	通期平均	上期平均	下期前提	通期平均	10月平均
為替：(¥/\$)	108.6	108.8	108.7	106.9	105.0	106.0	105.3
銅：(\$/t)	5,956	5,763	5,860	5,931	6,500	6,216	6,703
亜鉛：(\$/t)	2,554	2,256	2,405	2,150	2,400	2,275	2,442
インジウム：(\$/kg)	164	149	156	147	160	154	171

感応度については、現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の影響額は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

各セグメントにおける
新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスの影響① 環境・リサイクル（廃棄物処理）

2020年度 経常利益※

上期

下期

18億円

(前年同期比：△13%)

18億円

(前年同期比：+34%)

※国内および東南アジアの廃棄物処理事業の合計

■ 集荷・受注

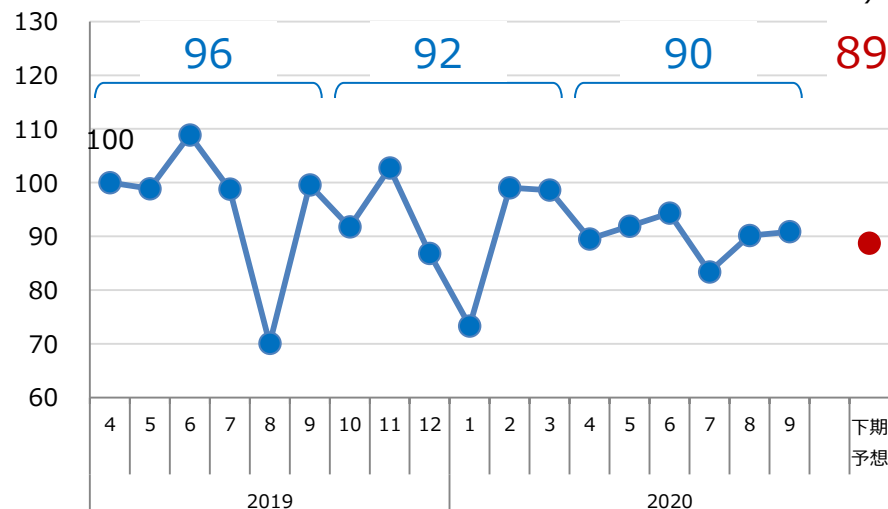
- ・国内は自動車関連顧客の減産影響を受けたものの、スポット受注の獲得などによりリカバー
- ・東南アジアは経済全般の停滞により受注減

■ 操業

- ・国内、東南アジアとも、操業への影響なし
- ・東南アジアでは入国制限などにより、新規建設案件の進捗に遅れが発生

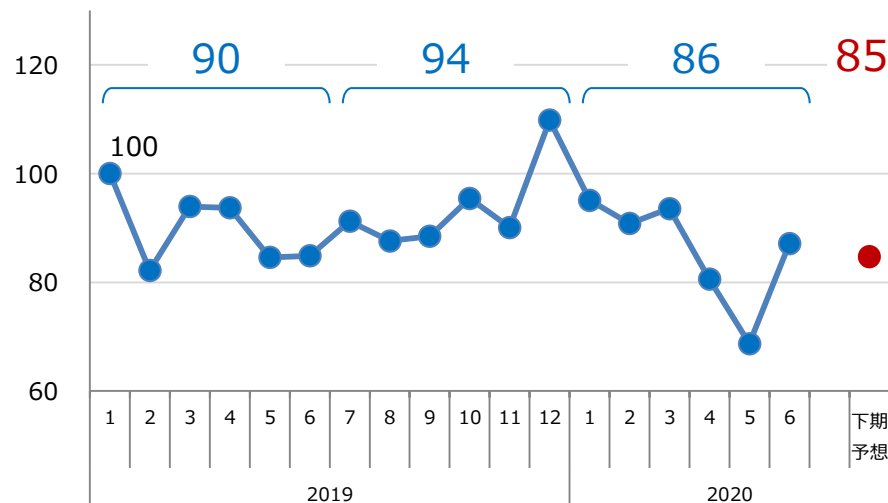
廃棄物の処理量（国内）

(2019年4月=100)



受注高（東南アジア）※

(2019年1月=100)



※現地決算月ベース、連結決算には上記の3カ月後に反映

新型コロナウイルスの影響② 環境・リサイクル (リサイクル)

2020年度 経常利益 ※

上期

12億円

(前年同期比: +16%)

下期

12億円

(前年同期比: △9%)

※リサイクル事業のみ

集荷

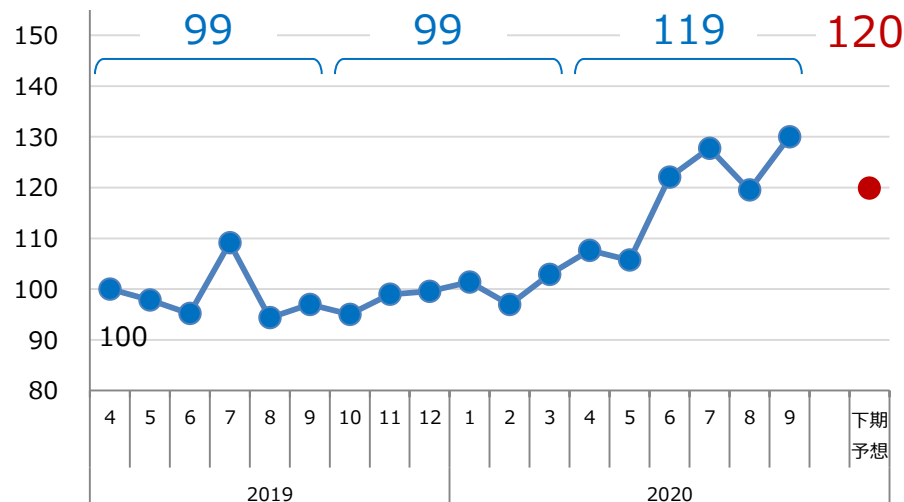
- ・家電リサイクルは、コロナ禍の影響少なく、買替需要増により、使用済み家電の処理量が増加
- ・自動車リサイクルは、国内の新車販売台数が減少した影響が徐々に顕在化、影響の少ない廃プラの集荷に注力

操業

- ・特に影響なし

家電リサイクル処理量

(2019年4月=100)



自動車リサイクル処理量

(2019年4月=100)



新型コロナウイルスの影響③ 製錬

2020年度 経常利益

上期

86億円

(前年同期比：+84%)

下期

122億円

(前年同期比：+62%)

販売

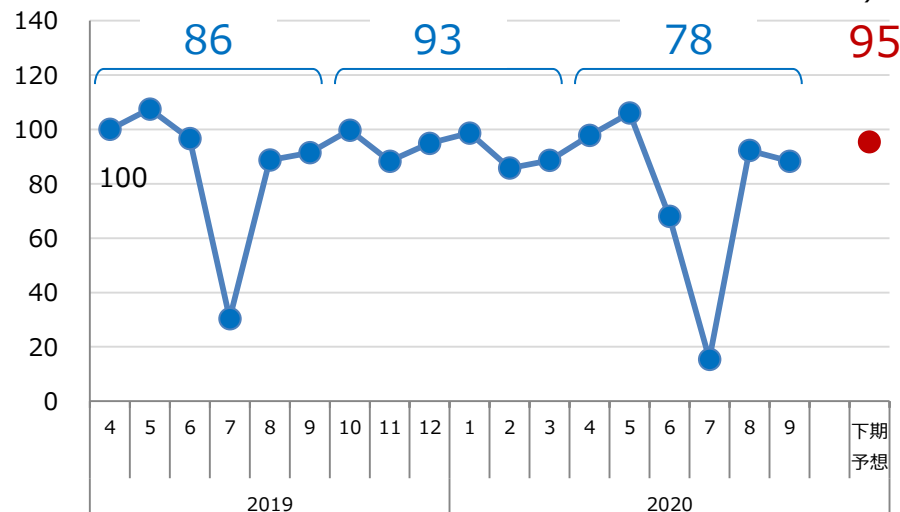
- ・亜鉛は自動車向け、建材向けともに需要低下
- ・自動車生産・販売の復調により、下期は亜鉛、銅などを含む関連地金の需要回復を見込む

操業

- ・精鉱、リサイクル原料の調達環境は一時的に悪化したものもあるが、操業に影響を与える状況には至っていない

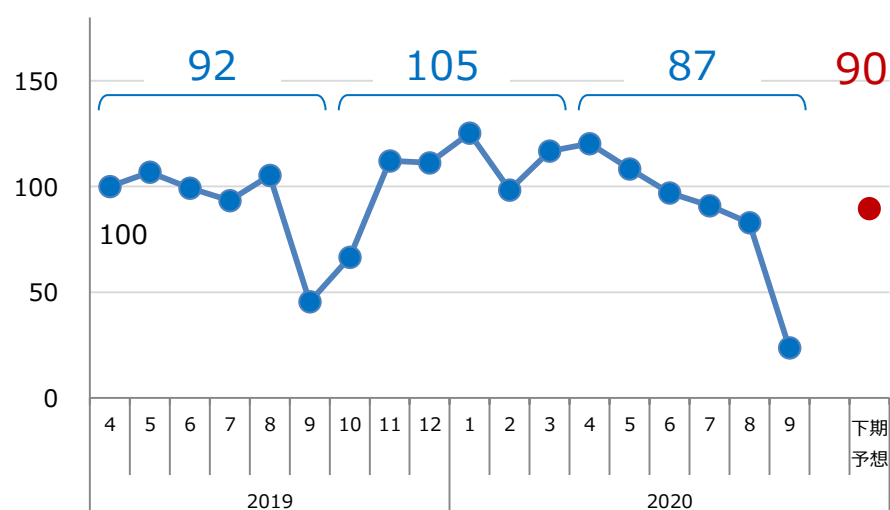
亜鉛生産量

(2019年4月=100)



金生産量

(2019年4月=100)



新型コロナウイルスの影響④ 電子材料

2020年度 経常利益

上期

16億円

(前年同期比：+33%)

下期

15億円

(前年同期比：+27%)

■ 販売

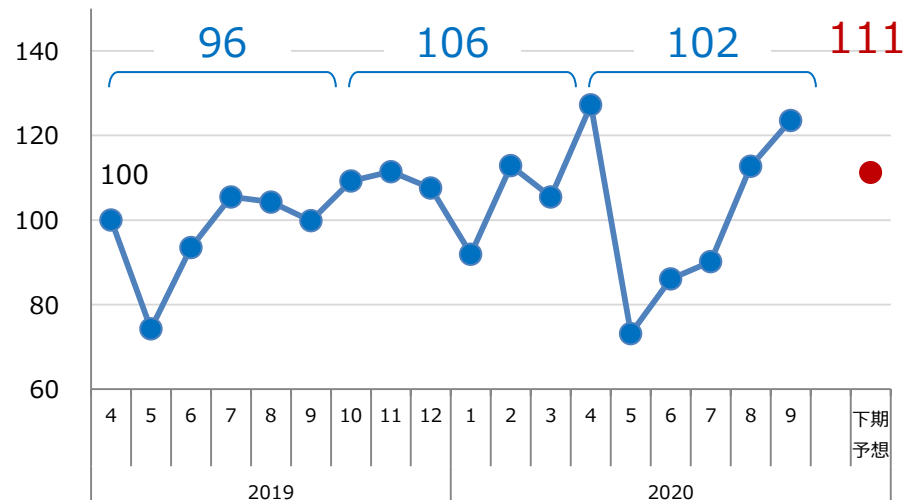
- ・銀粉は中国、東南アジアのセルメーカーの稼働回復により、6月以降、需要増加に転じた
- ・血中酸素測定機器向けLEDの販売が増加
- ・新規品は概ね想定通りに拡販が進んだ

■ 操業

- ・特に影響なし

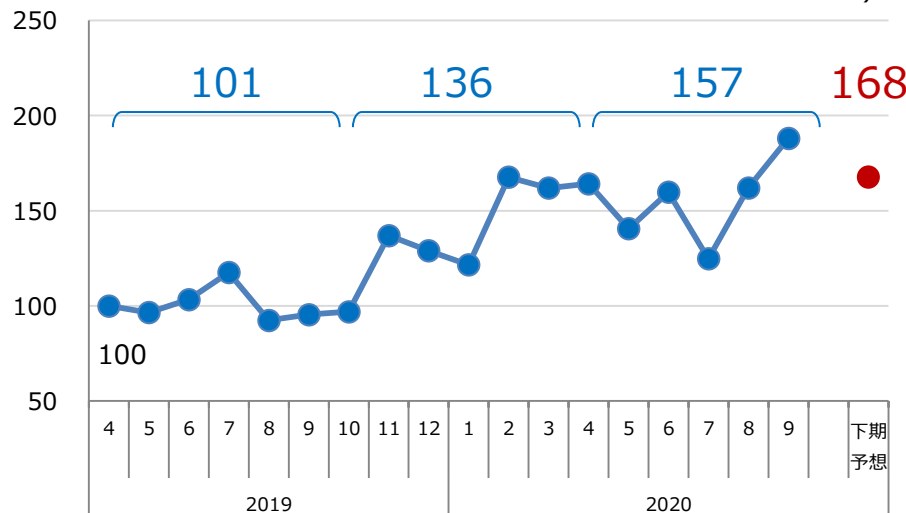
銀粉販売量

(2019年4月=100)



新規品収入

(2019年4月=100)



新型コロナウイルスの影響⑤ 金属加工

2020年度 経常利益

上期

6億円

(前年同期比：△72%)

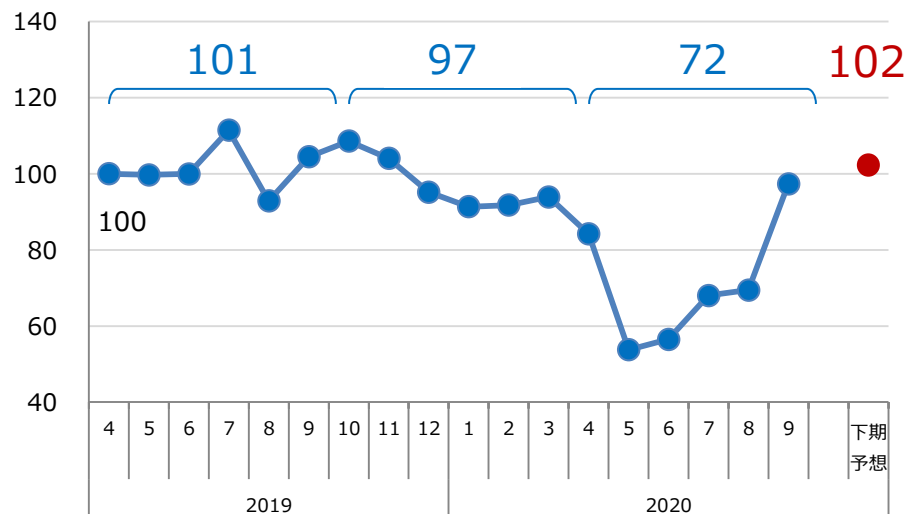
下期

29億円

(前年同期比：+8%)

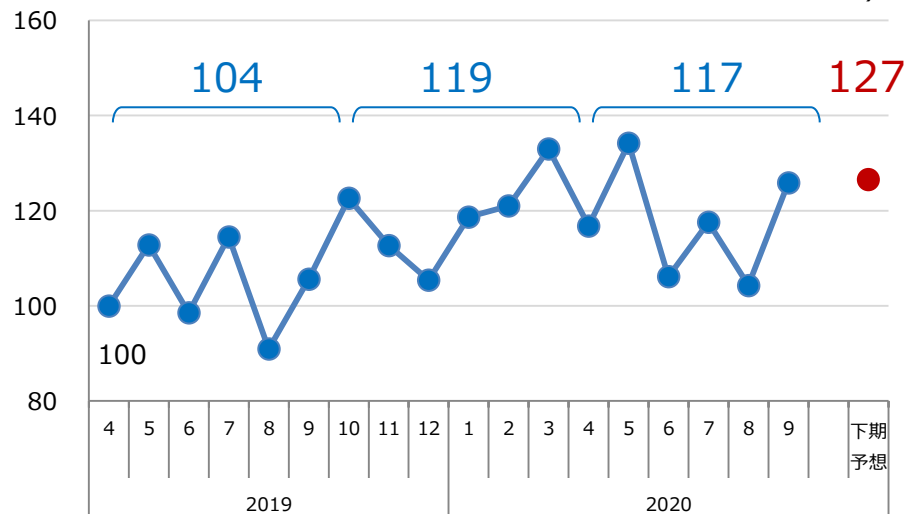
伸銅品販売量（車載向け）

(2019年4月=100)



伸銅品販売量（電子部品向け）

(2019年4月=100)



販売

- ・車載向け伸銅品は期初から需要が減退も、6月より回復軌道へ入った
- ・電子部品向け伸銅品は旺盛な5G向け需要を背景に、堅調な受注動向となった

操業

- ・車載向け伸銅品は2Q以降に操業度が上昇
- ・中国の新拠点の立上げ時期が遅延

新型コロナウイルスの影響⑥ 熱処理

2020年度 経常利益

上期

下期

△7億円
(前年同期比：△13億円)

13億円
(前年同期比+87%)

■ 販売

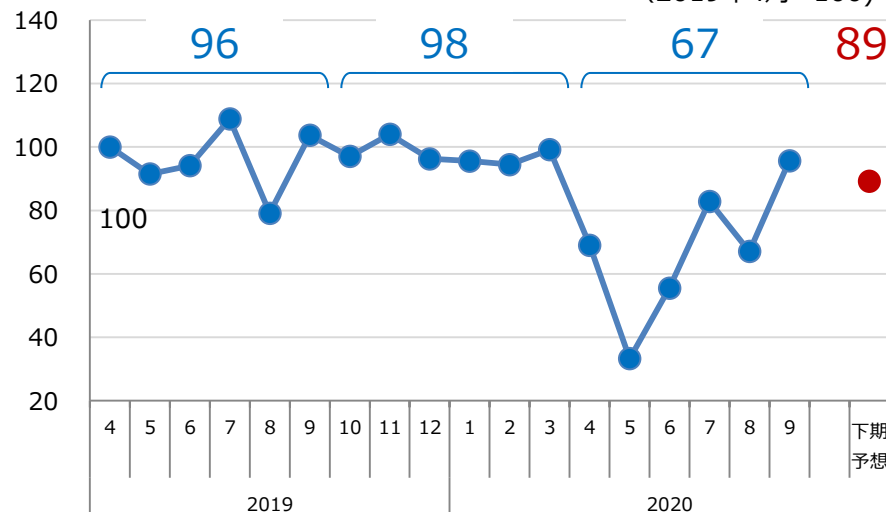
- ・各国の都市封鎖と世界的な自動車生産台数の減少により、3月より受注が大幅に減少
- ・受注減は4～5月に底打ちし、以降、中国、米国、日本、インドなどが回復軌道に入った

■ 操業

- ・国内外の拠点の操業度は1Qに大幅に低下も需要に追従し、2Q以降は回復

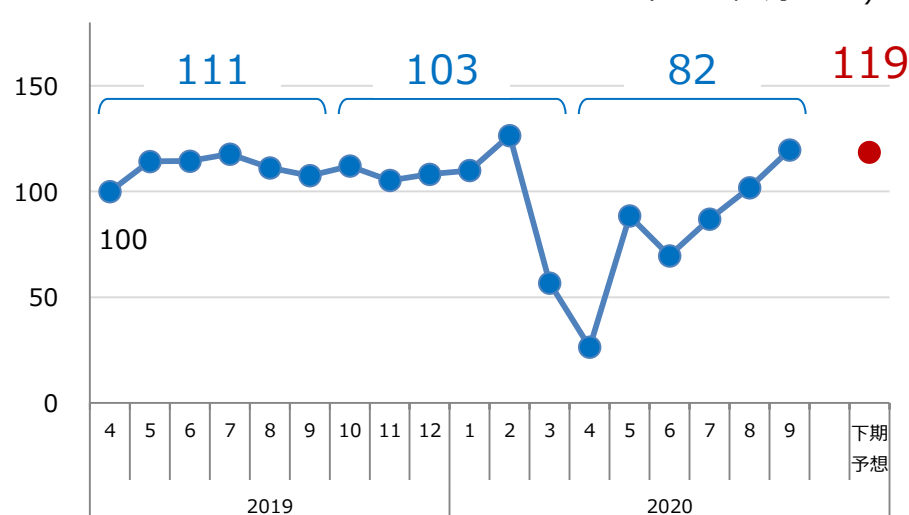
浸炭処理量 (国内)

(2019年4月=100)



浸炭処理量(海外)

(2019年4月=100)



1. 総括

- ・環境・リサイクル、電子材料の業績は、上期・下期とも堅調
 - ・製錬は金属価格の上昇の恩恵により、前年比で大幅に増益
 - ・自動車関連ウエイトの高い金属加工、熱処理は1Qに需要急減も
2Qに回復し、下期は需要の回復軌道がさらに鮮明となる見通し
- ⇒ 独自の事業ポートフォリオにより、新型コロナウイルスの影響を緩和し、
通期の経常利益は、前年とほぼ同水準の290億円を見込む

2. 今後の方針

- ・中期計画2020で成長市場と定義した「自動車」、「情報通信」、
「環境・エネルギー」、「医療・ヘルスケア」の各分野へ注力する方針に変更なし
- ・進捗に遅れがあった施策は再開しつつあり、中期計画2020の最終年度である
2021年度に向けて、施策の実行および成果の刈り取りを図る

各セグメントにおける 施策の進捗状況

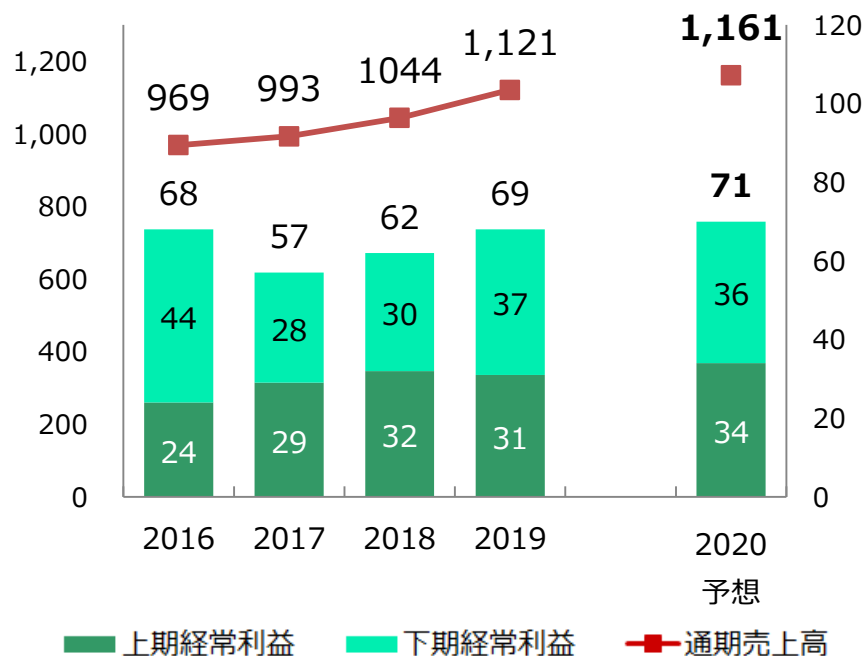
環境・リサイクル① 事業概況

事業環境（2020年度下期）

- ・廃棄物：国内の発生量は横ばい、タイヤ
インドネシア、シンガポールの発生量は減少
- ・リサイクル：リサイクル原料と廃家電の
発生量は上期並み、廃自動車は回復の兆し

売上高・経常利益

(単位：億円、億円未満切り捨て)



《主要製品の数量動向》

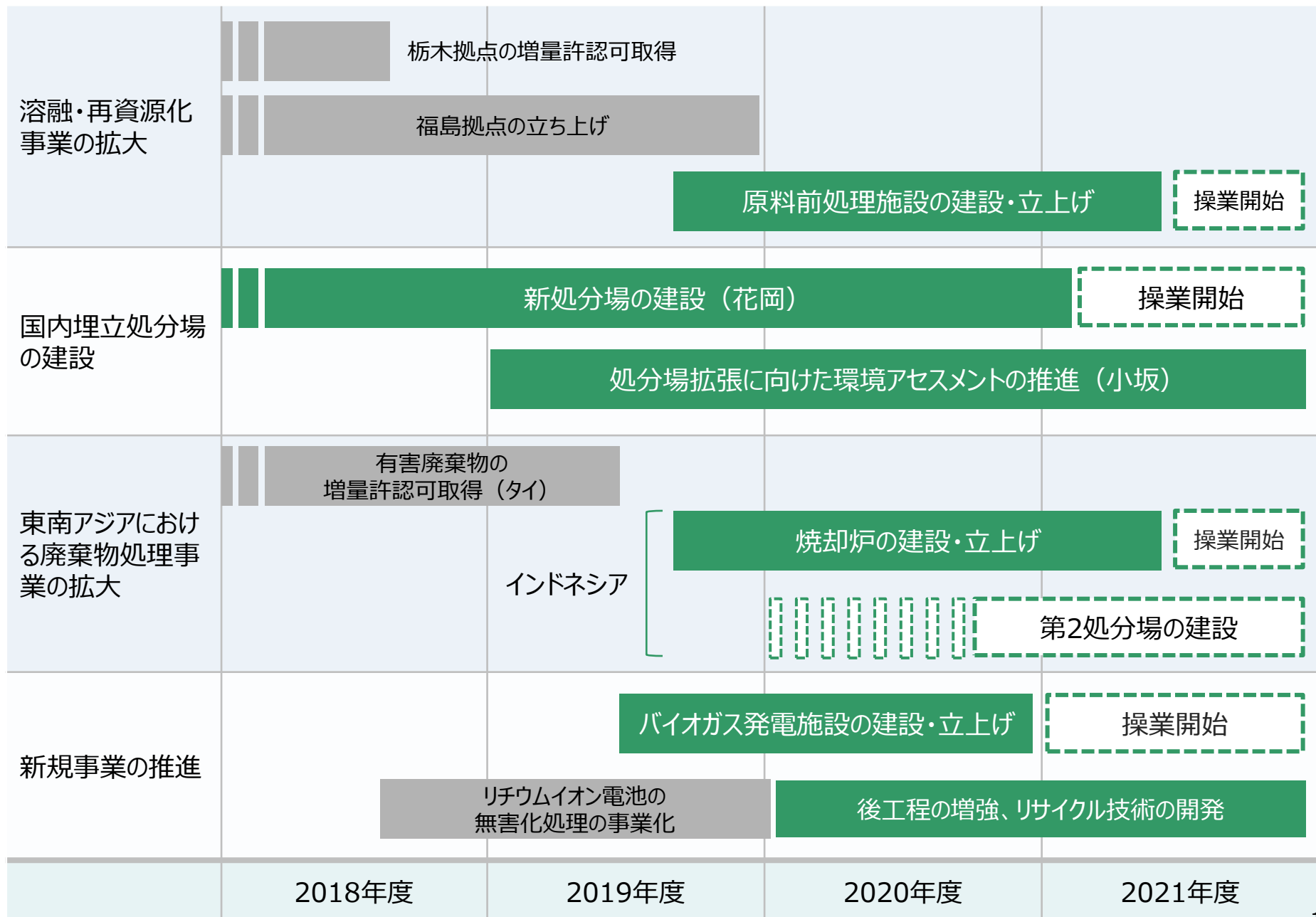
(2019年度上期 = 100)

	2019年度		2020年度	
	上期	下期	上期	下期
国内廃棄物中間処理量	100	97	95	94
溶融・再資源化処理量	100	96	103	108
家電リサイクル処理台数	100	100	120	121
東南アジア廃棄物処理額	100	106	95	94

2020年度下期の概況（上期実績比）

- ・廃棄物処理は定修日数の増加により
処理量減、単価は上期水準を維持
- ・溶融・再資源化は処理量増を計画
- ・土壌浄化、リサイクルは上期並みの利益水準
- ・東南アジアは集荷量減により、上期の利益
水準を下回る見込み

環境・リサイクル② 中期計画における主要施策の進捗状況



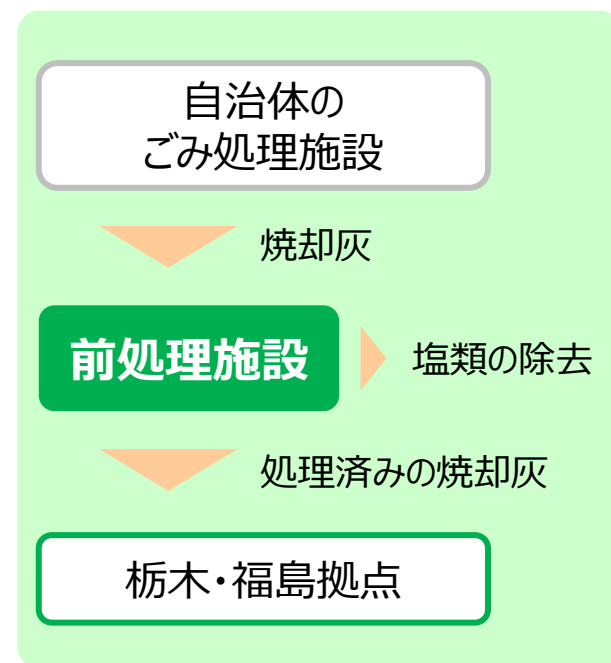
国内における新規事業の展開

- ・溶融・再資源化事業の拡大

前処理施設（神奈川）を2021下期に開業予定

→ 栃木・福島拠点の稼働率・処理量を向上

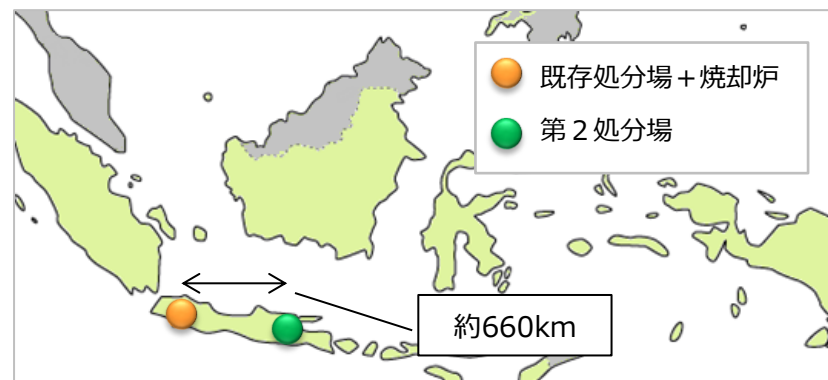
- ・食品廃棄物を原料にしたバイオガス発電事業（岡山）
- ・不燃性廃棄物の再資源化事業（福島）



インドネシアにおける事業拡大

- ・焼却炉：2021下期に操業を開始予定
→ 有害廃棄物の処理メニューを拡大
- ・第2 処分場：2022. 1 Qに開業予定
→ 処分場 2 拠点体制で受注を拡大

溶融・再資源化事業 前処理施設の役割



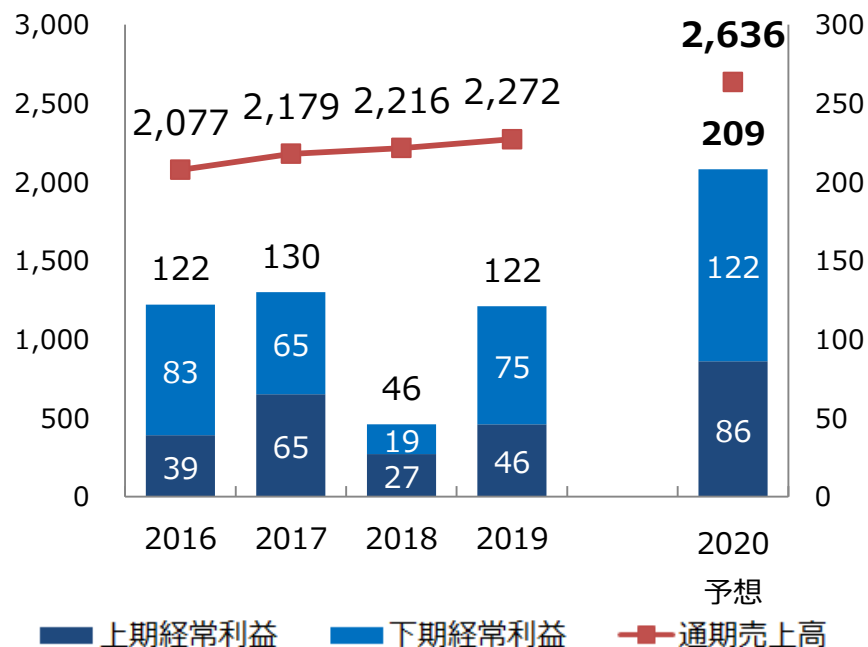
製錬① 事業概況

事業環境（2020年度下期）

- ・金属価格は、貴金属・ベースメタルとも
上期平均よりも高い価格水準を想定
- ・地金需要は、銅・亜鉛ともに回復の兆し

売上高・経常利益

（単位：億円、億円未満切り捨て）



《主要製品の数量動向》

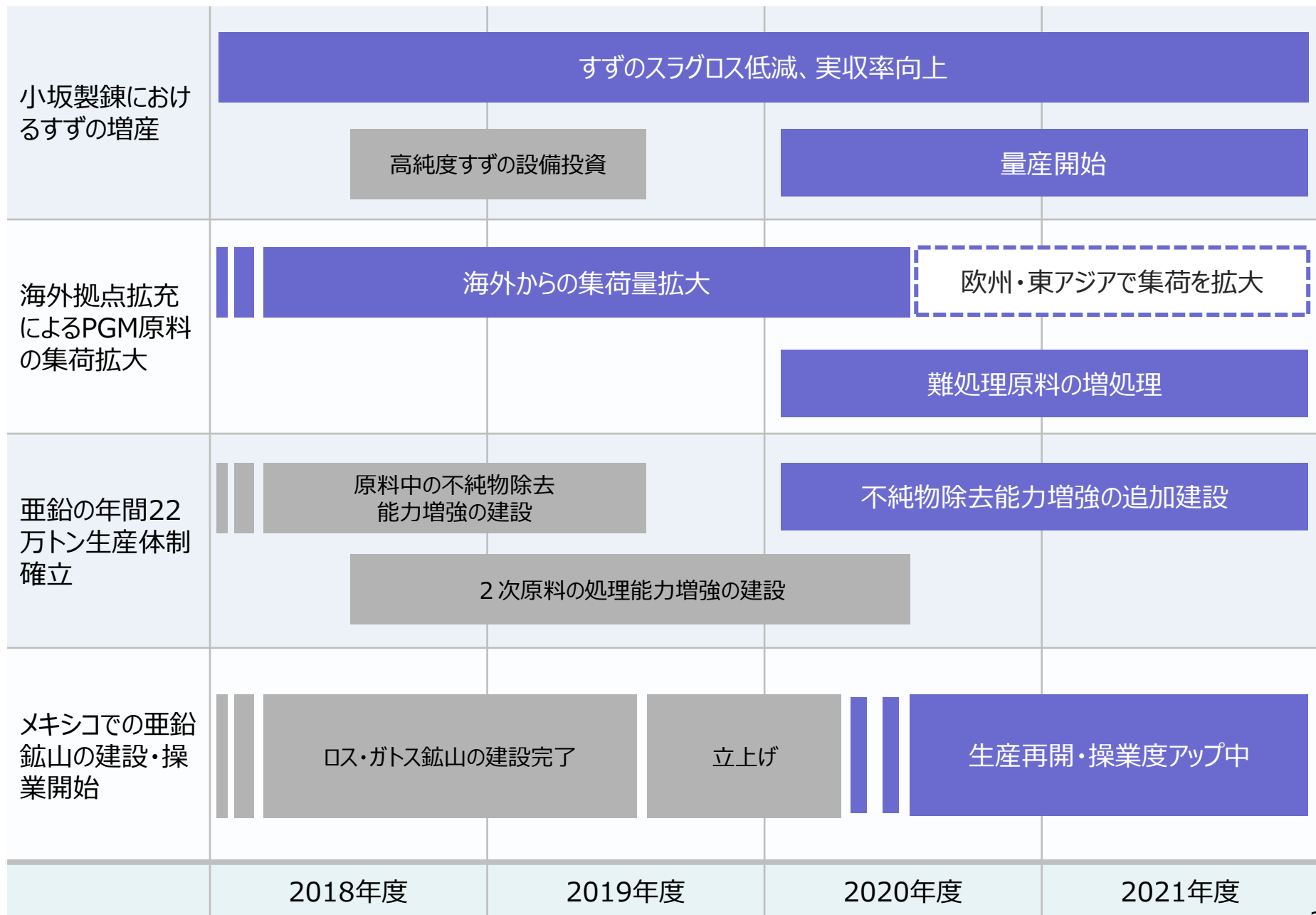
（2019年度上期 = 100）

	2019年度		2020年度	
	上期	下期	上期	下期
銅生産量 （小坂・小名浜）	100	103	98	105
金生産量 （小坂）	100	112	90	108
亜鉛生産量 （秋田）	100	108	91	111

2020年度下期の概況（上期実績比）

- ・亜鉛製錬は2次原料の増処理に取り組む
- ・使用済み排ガス浄化触媒の集荷量は上期と同水準を計画
- ・ロス・ガトス鉱山は6月より操業を再開。金属価格上昇のメリットも受けて、2020年度下期の最終損益は黒字を見込む

製錬② 中期計画における主要施策の進捗状況



製錬③ トピックス

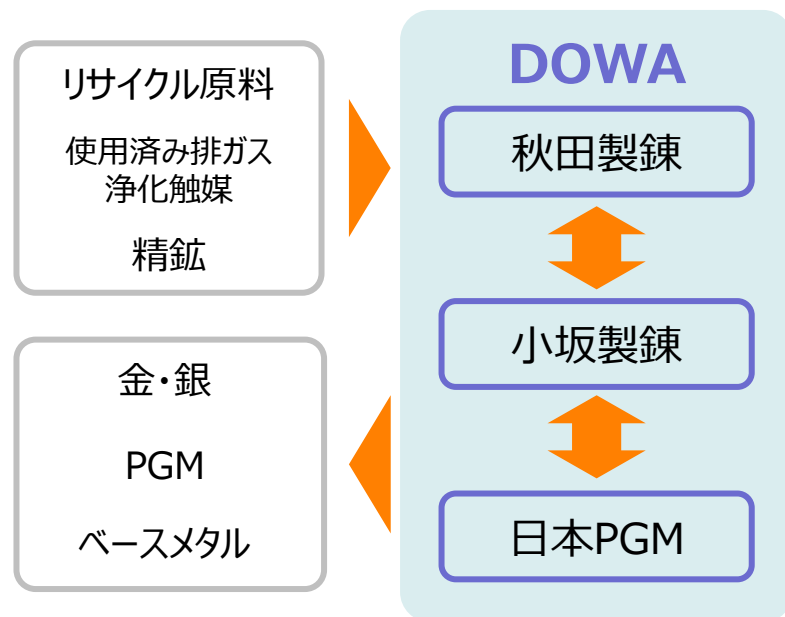
製錬・リサイクル複合コンビナートの強み

- ・複数の製錬工程を連携 → 約20種類の金属を回収、**貴金属の回収能力が高い**
- ・**安定したグローバル原料集荷**

貴金属価格の上昇、原料条件の改善を受けて、
安定した収益を実現

亜鉛事業の取り組み

- ・ロス・ガトス鉱山：
コストを含めた採鉱・選鉱プロセスの向上
→ **秋田製錬への精鉱の安定供給に注力、投下資金の回収を進める**
- ・秋田製錬：
不純物除去能力増強の追加建設に着手、2021下期に完工予定
→ **多様な原料を受け入れられる対応力を高めていく**
- ・タイ加工拠点：増強投資を一時中断 → **需要回復が見えた時点で再開**



製錬・リサイクル複合コンビナート

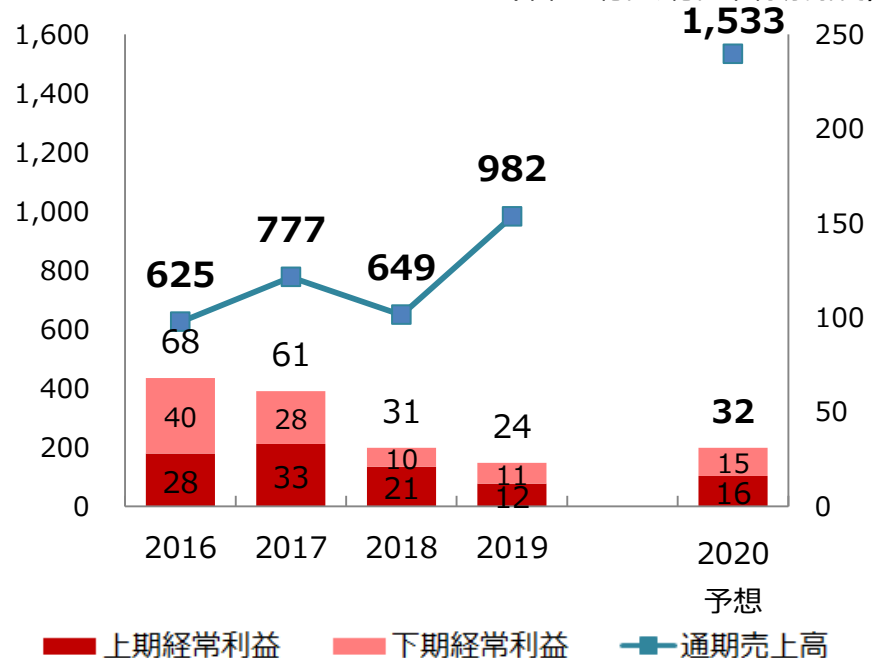
電子材料① 事業概況

事業環境（2020年度下期）

- ・太陽光パネルは世界的に設置数が増加
- ・スマートフォンの総出荷台数は減少
- ・ウェアラブル機器は健康志向ニーズの高まりにより数量増加

売上高・経常利益

(単位：億円、億円未満切り捨て)



《主要製品の数量動向》

(2019年度上期 = 100)

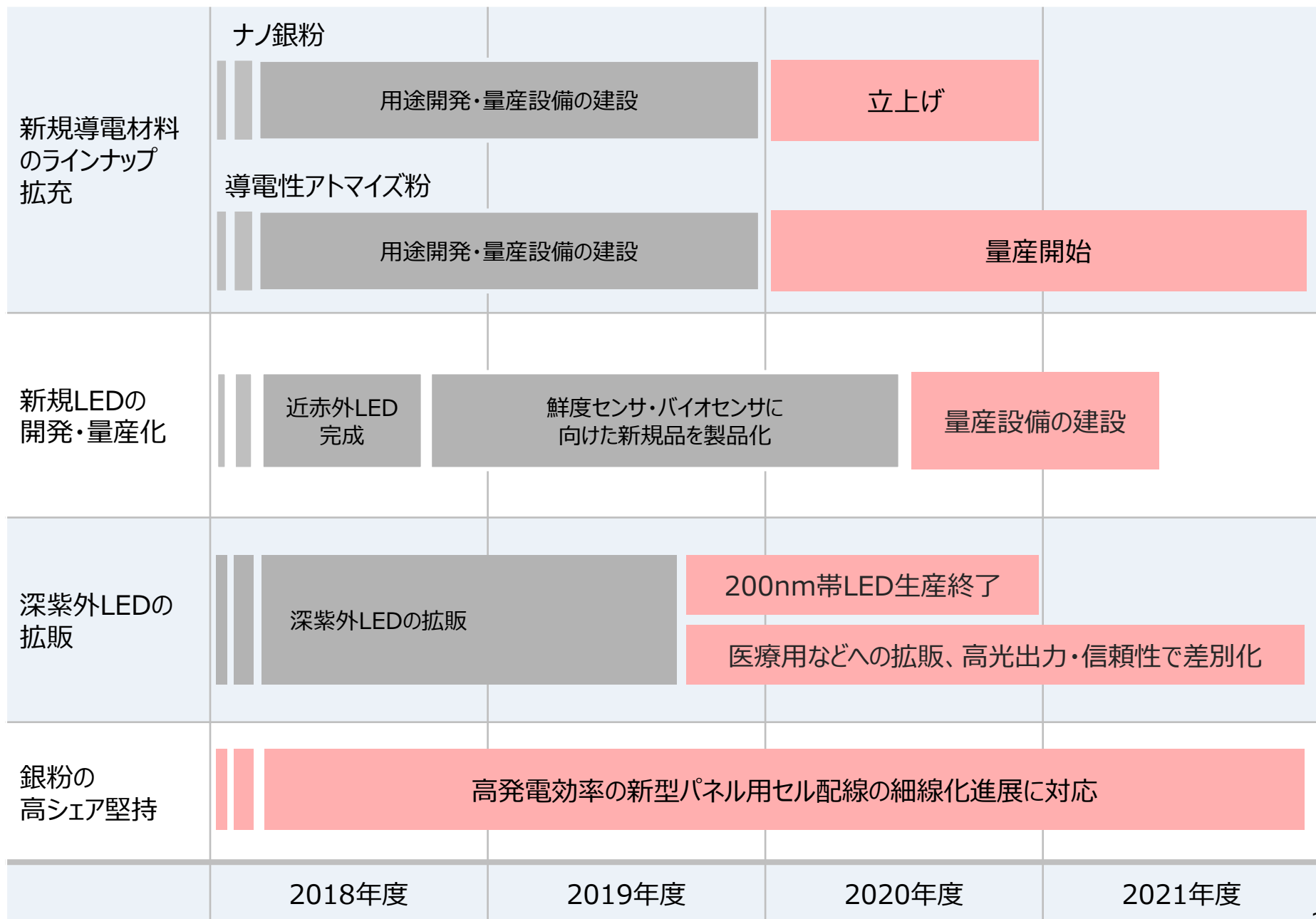
	2019年度		2020年度	
	上期	下期	上期	下期
LED販売量	100	97	114	98
銀粉販売量	100	116	106	116
新規製品収入 (サンプル代金など)	100	134	156	167

2020年度下期の概況（上期実績比）

- ・銀粉は新型パネル向け需要を取り込む
- ・LEDは医療機器向け需要増が落ち着き、前年同期並みの販売
- ・導電性アトマイズ粉を拡販
- ・近赤外LEDの建設投資を開始

※売上高の増加は、主に銀粉の地金付き取引の増加によります。

電子材料② 中期計画における主要施策の進捗状況

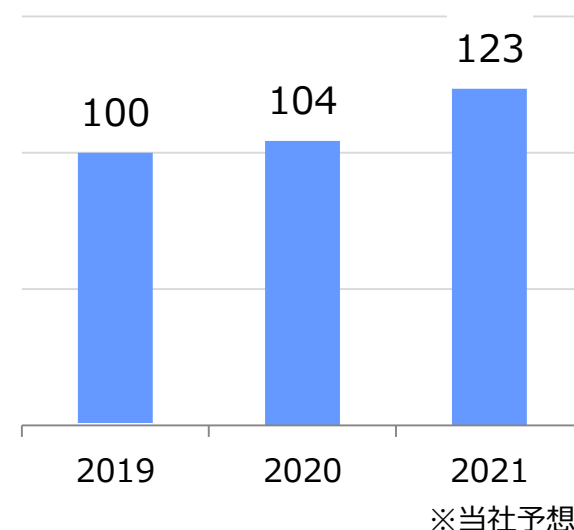


■ 銀粉

- ・各国の新エネルギー政策により、太陽光パネルの需要は旺盛
- ・中国、米国に加え、ブラジル、インドなどでも設置量が拡大
- ・2021年はコロナ禍による後ろ倒し需要を含む
 - 高発電効率のニーズに応えるため、セル配線の細線化に適した銀粉の開発に注力し、トップシェアを維持する

世界の太陽光パネル設置量

(2019年度 = 100)



■ 導電性アトマイズ粉

- ・コンデンサ向けへの採用が進み、2020.2Qから量産販売段階へ移行
 - さらなる拡販、生産性の向上とインダクタ向けなどへの用途展開を進める

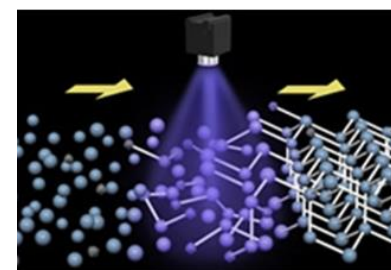
■ 深紫外LED

- ・事業環境の変化により、殺菌向け200nm帯LEDの生産を中止
 - 業界トップクラスの高出力・高信頼性を武器に、医療機器向けなどに300nm帯LEDを拡販

300nm帯LED製品用途例



皮膚治療



樹脂硬化

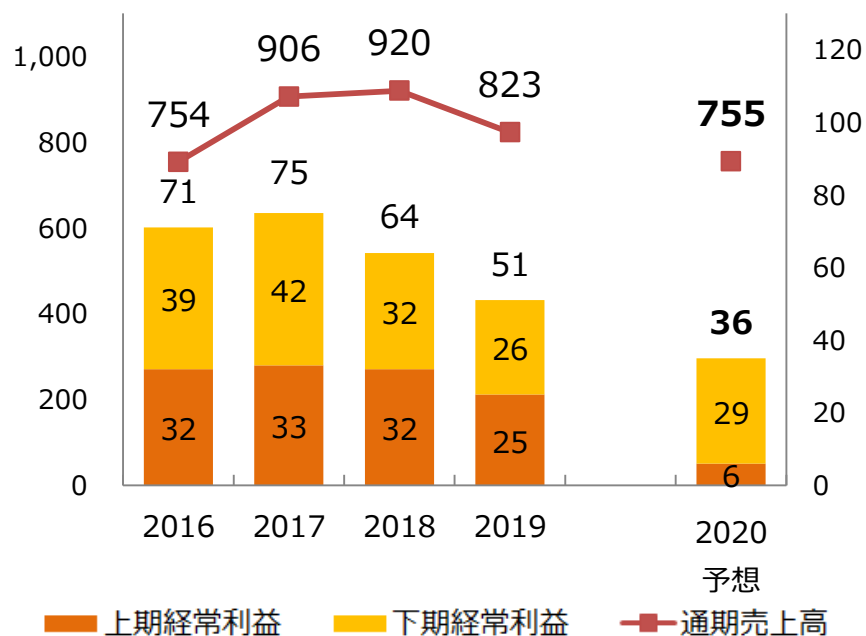
金属加工① 事業概況

事業環境（2020年度下期）

- ・コロナ禍で低迷した自動車生産が急回復
- ・自動車の電動化、知能化が進む
- ・情報通信機器の多機能化、高速通信化が進む

売上高・経常利益

（単位：億円、億円未満切り捨て）



《主要製品の数量動向》

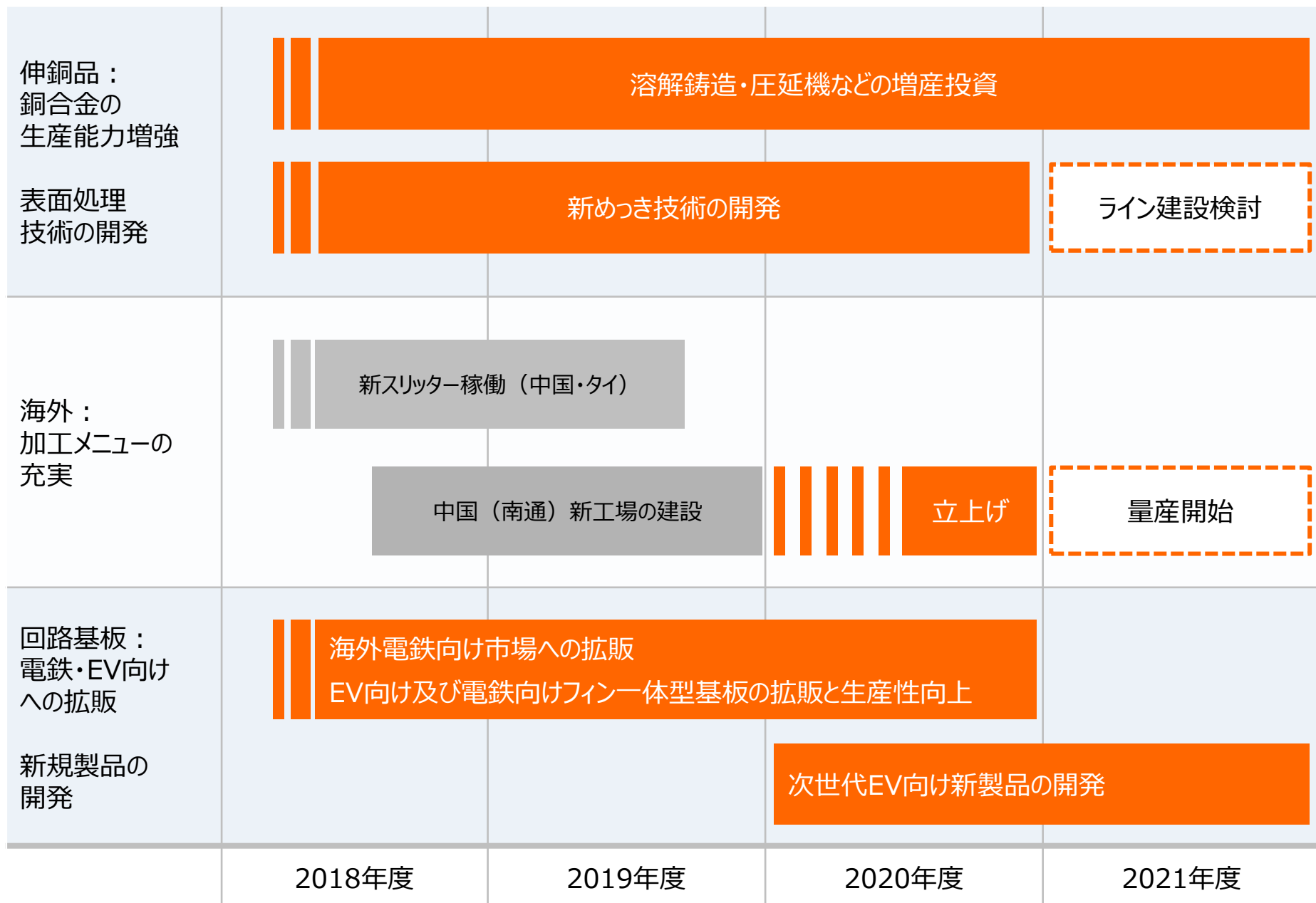
（2019年度上期 = 100）

	2019年度		2020年度	
	上期	下期	上期	下期
伸銅品販売量 （自動車向け）	100	96	71	101
伸銅品販売量 （情報通信機器向け）	100	115	114	122

2020年度下期の概況（上期実績比）

- ・自動車向け伸銅品、貴金属めっきは自動車需要回復に追従
- ・情報通信機器向け伸銅品は5Gモデル普及などによるスマートフォンの復調により生産増
- ・金属-セラミックス基板は新線計画延期などを受け電鉄向けが調整入り

金属加工② 中期計画における主要施策の進捗状況

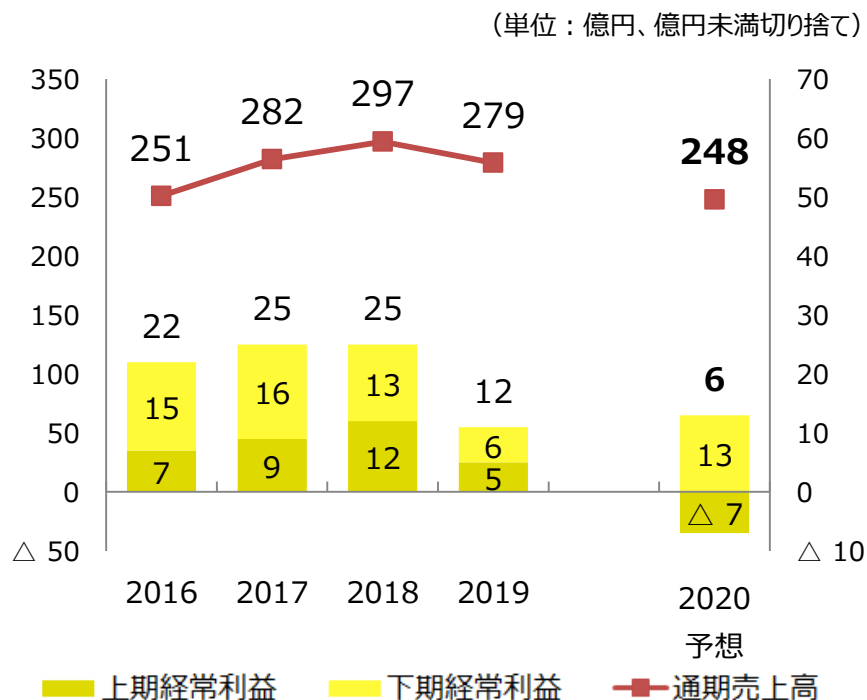


熱処理① 事業概況

事業環境（2020年度下期）

- ・日本、中国、米国、インドなど主要な自動車生産地の需要は急速に回復し、顧客工場の稼働率も向上
- ・メンテナンス工事は先送りとなる傾向

売上高・経常利益



《主要製品の数量動向》

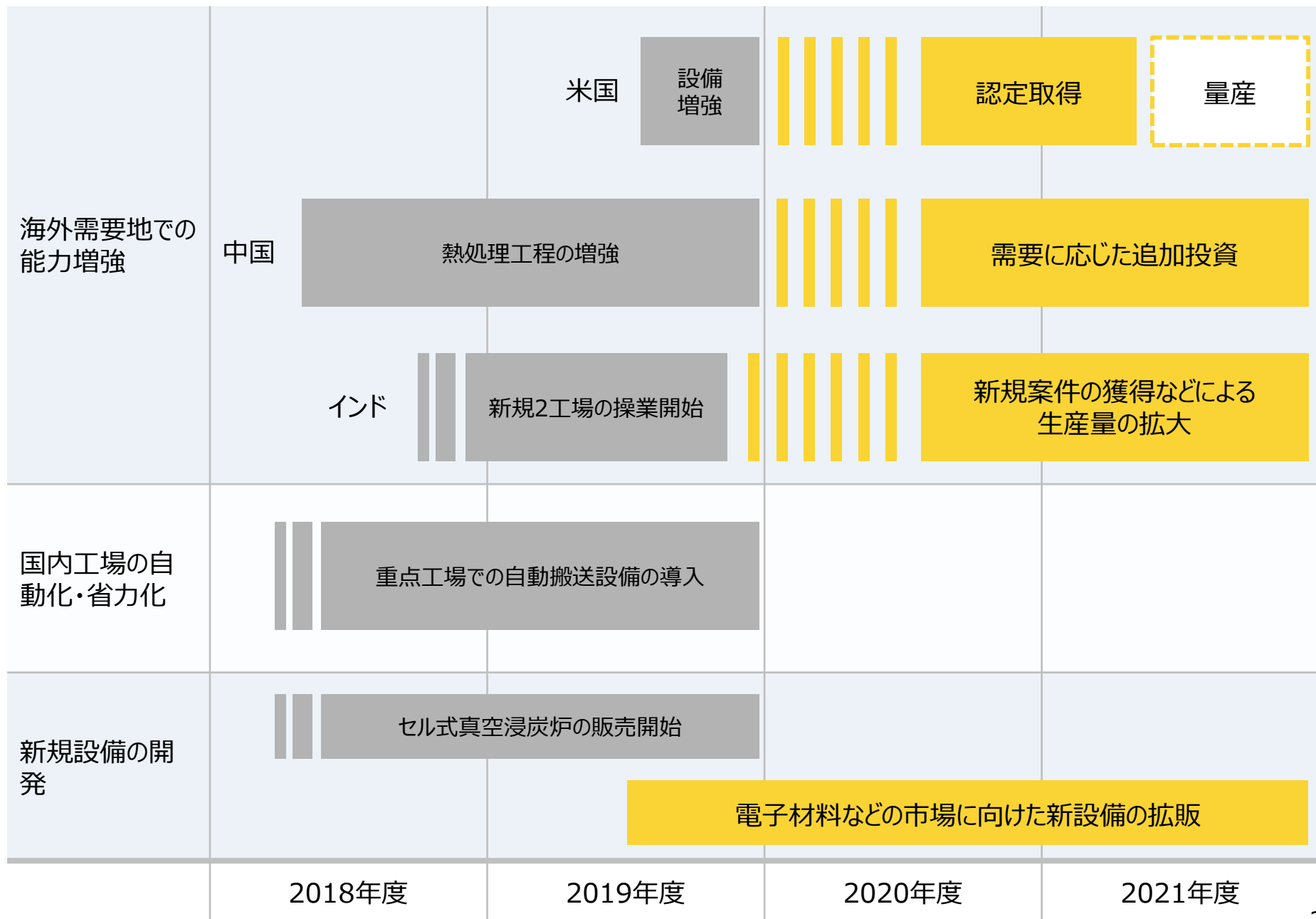
(2019年度上期 = 100)

	2019年度		2020年度	
	上期	下期	上期	下期
熱処理加工売上高	100	100	70	106
工業炉売上高	100	98	68	106

2020年度下期の概況（上期実績比）

- ・国内外の熱処理加工拠点の稼働率は段階的に改善する見通し
- ・上期に取り組んだコスト削減効果を維持しつつ、下期は受注回復に伴う利益獲得に注力する

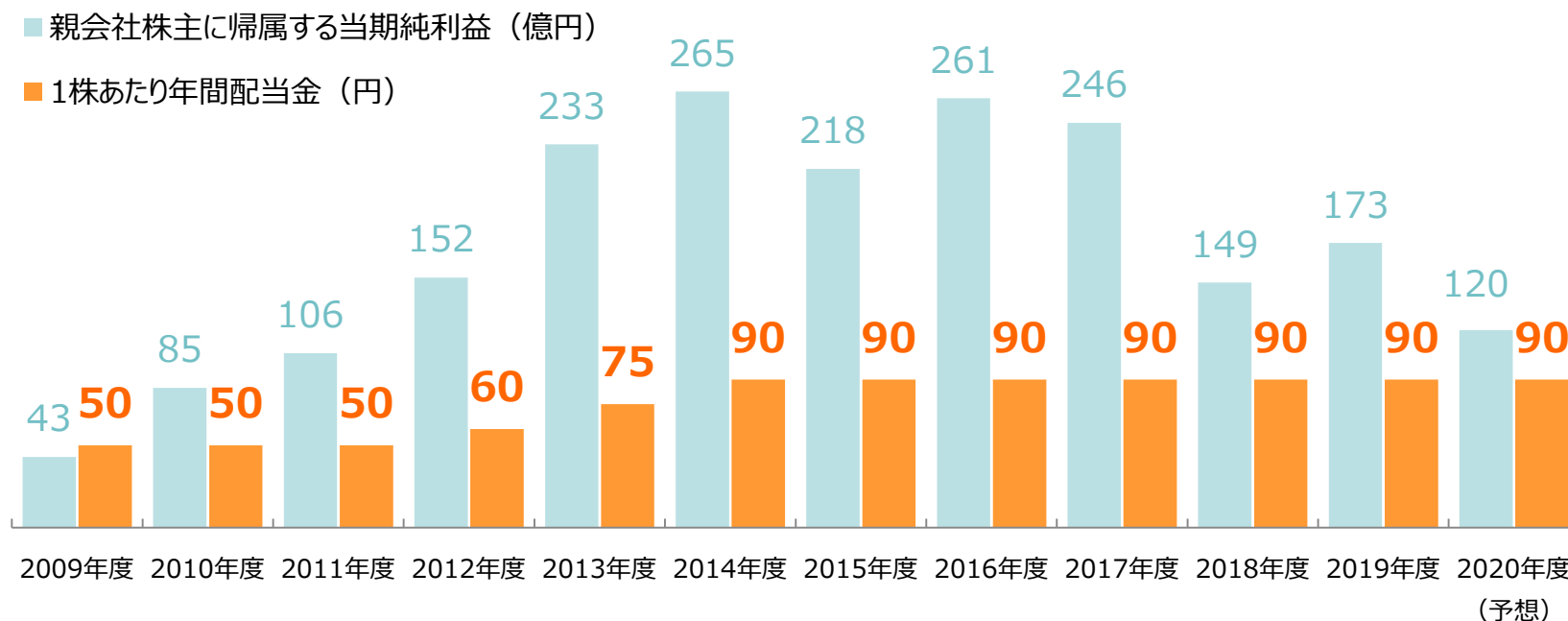
熱処理② 中期計画における主要施策の進捗状況



配当予想

当社は中期計画2020の期間（2018年度～2021年度）においては、1株あたり90円の安定した年間配当を維持した上で、利益水準に応じた増配を目指しています。

2020年度については、親会社株主に帰属する当期純利益が前年比減となる見通しではありますが、上記方針に基づき、1株あたり90円の配当を予定いたします。



※ 2009年度から2016年度の1株あたり年間配当金は、株式併合後の金額に調整しています。

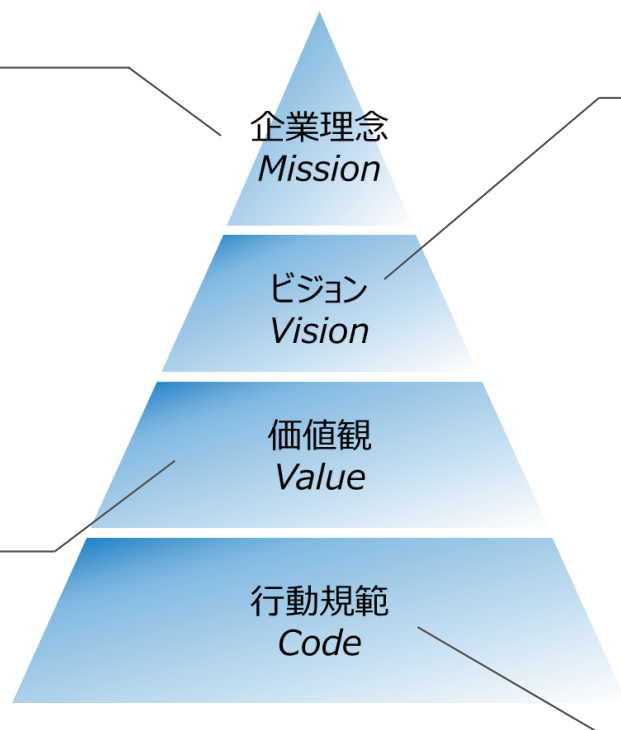
経営理念、ビジョン、価値観、行動規範の改定について

中長期的な視点に基づき、経営理念、ビジョン、価値観、行動規範を改定。
ビジョンは「DOWAグループが目指す将来像：2030年のありたい姿」として設定し、
本業の進化により様々な社会課題の解決に貢献し続けるための指針とする。

地球を舞台とした事業活動を通じて、
豊かな社会の創造と資源循環型社会の
構築に貢献する

《2030年のありたい姿》
本業とする資源循環と
優れた素材・技術の提供を進化させ、
安心な未来づくりに貢献し続ける

1. 社会の課題と正しく向き合う
2. 誠実で責任ある行動をとる
3. 公正な競争を行う
4. 変化を受け入れて、挑戦の機会とする
5. 多様性を認め、個人を尊重する



1. 企業価値の向上と社会課題の解決
2. 技術・品質向上の追求
3. 労働安全衛生の推進
4. 環境負荷の低減
5. ガバナンスの遂行
6. 法令・ルール・手順の遵守
7. リスクマネジメントの徹底
8. 変化・挑戦・成長
9. 個人の尊重
10. チームワークの発揮
11. ステークホルダーとの建設的な対話
12. 地域社会への貢献

DOWA

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。